2003年

平和友好条約締結二十五周年、友好と文化交流の盛り上がりが期待される年だった。しかし、年明け早々に小泉首相が靖国神社参拝。三月に新型肺炎（ＳＡＲＳ）がアジア地域に流行し、夏まで交流はほとんどストップという未曾有の事態となった。協会は秋以降、北京で高山辰雄代表理事の個展開催、新たな分野の交流をめざす「日本環境・建築関係者訪中団」など活発さを取り戻し、白土吾夫代表理事が「日中学院倉石賞」を受賞した。白土氏が協会創立に参画以来、長くその運営にあたるなかで、原則を踏まえ、柔軟かつ積極的に交流を展開し、民間団体としての土台を築いた努力が授賞理由となった。米英軍がイラク戦争開始。日本では有事法制関連三法、自衛隊をイラクに派遣する特措法が成立。胡錦濤氏が国家主席、温家宝氏が総理に就任。「神舟五号」による初の有人宇宙飛行成功もこの年。

〈二〇〇三年の主な交流〉

◎3月　現代日本歌人友好訪中団（水野昌雄団長、森山晴美副団長、寺島萬里子顧問、佐藤祥子秘書長、樋口喜美子、川口二三子、寺島清文、大畑憲子、日野きく、川田なか子、土屋かづ江、大野ミツエ、伊東収、内藤ます子、小木宏、宮川和枝らの諸氏）訪中。**田中凍雲・竹園夫妻**訪中。**上海市文学芸術界連合会代表団**（江明惇団長、韓碩、顔雪皎、馮衛斌、葛燕萍の諸氏）来日。

◎4月　中国人民対外友好協会代表団（李慎明団長、李鉄民秘書長、劉子敬、張忠志、馬援、王心富、梁林冲の諸氏）来日。**日本書道界囲碁愛好者訪中団**（田中凍雲顧問、大井錦亭団長、高際翠邦副団長、矢萩春恵、友井幸雄、千葉軒岳、南八郎、木曾梅邦、吉田錬雪、中野暁の諸氏）訪中。

◎8月　髙井有一常任理事、中村輝子夫妻が訪中。

◎9月　中国大使館、外務省、当協会など日中友好七団体共催で、**呉邦国全人代委員長夫妻歓迎・平和友好条約締結二十五周年祝賀レセプション。日本文化界訪中団**（松尾敏男団長、入江観副団長、石川浩一、中野暁、角理羽子、鮫島明子の諸氏）訪中。**日中文化交流協会代表団**（辻井喬団長、木田元副団長、佐藤純子、太田省吾、酒井信義、石川九楊、宮一穂らの諸氏）訪中。北京で**「日本高山辰雄作品特別展」**（主催：北京ビエンナーレ展組織委員会、当協会、日本経済新聞社）を開催、開幕に鶴田卓彦、鎌田真一、木村美智子らの諸氏訪中。

◎10月　白土吾夫代表理事が「日中学院倉石賞」を受賞。日本環境・建築関係者訪中団（團紀彦団長、大久保英治、原科幸彦、三宅理一、五十嵐俊一、齋藤真希子秘書の諸氏）訪中。**劇団前進座「天平の甍」訪中公演**、当協会など後援。北京で**「下保昭画展」**当協会など後援。

中国作家代表団の蒋子龍団長（右二）、張抗抗氏（左二）らは辻井喬代表理事（右一）の自宅を訪問、麻子夫人（左一）手ずからの料理を賞味しながら交流を深めた

——2003年11月12日　東京

詩人としても知られる李肇星外相（右）と互いに詩集を贈呈し、しばし歓談する辻井喬代表理事　——2003年8月12日　東京

日本環境・建築関係者訪中団中国へ　清華大学建築学院で「半建築・半地形―ユニバーサルフォームの概念について」と題する学術報告を行なう團紀彦団長（左）。通訳を務める譚縦波副教授（中）　——2003年10月17日　北京

雲崗石窟を訪れた日本文化界訪中団の（後右から）入江観副団長、松尾敏男団長、石川浩一、角理羽子、鮫島明子（前）の諸氏

——2003年9月17日　大同

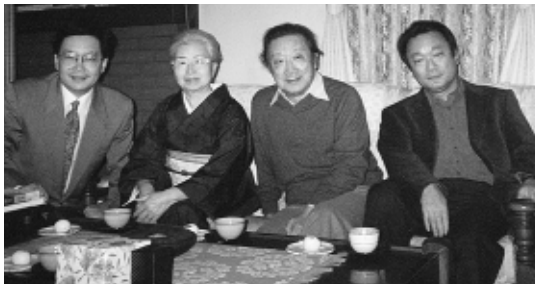
「日本高山辰雄作品特別展」を北京で開催　高山辰雄氏の中国での個展開催はこれが初めて、中国の観衆から感嘆の声が上がった。会場を訪れた協会代表団の辻井喬団長（右）、木田元副団長（左）ら一行――二〇〇三年九月二十一日

日本経済新聞社の杉田亮毅社長、来間紘常務取締役（右列手前から二、三番目）**と交流する石峰団長**（左二）**ら中国出版代表団一行**

――2003年11月13日　東京

故宮博物院で墨蹟本「蘭亭序」八柱を特別に鑑賞する協会代表団の石川九楊氏（前）**と太田省吾**（左一）**、酒井信義**（左二）**、辻井喬団長**（右二）**、宮一穂**（右一）**の諸氏。馬海軒氏**（左三）**と**

――2003年9月24日　北京

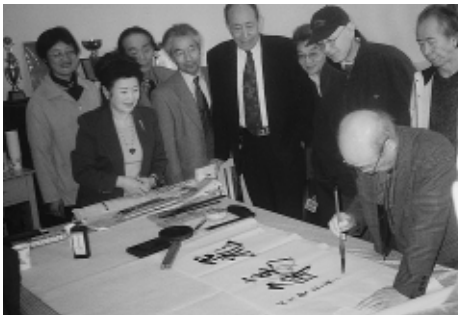


三浦哲郎常任理事（右二）**を自宅に訪ね、久方ぶりの再会を喜ぶ中国作家代表団の李錦琦氏**（左一）**。徳子夫人**（左二）**、佐藤洋二郎氏**（右一）**と**

――2003年11月4日　東京

正派邦楽会の中島靖子理事長（左二）**、唯是震一氏**（左一）**と伝統音楽について交流する江明惇上海文連代表団団長**（右二）**、ソプラノ歌手の趙非氏**（右一）

――2003年4月3日　東京



北京の映画界人士と対局後、記念の書を揮毫する大井錦亭日本書道界囲碁愛好者代表団団長。洪洲氏、朱旭氏らの顔も――2003年4月6日　北京

◎11月　中国出版代表団（石峰団長、余昌祥、王福珍、任道遠、陳実、単之薔の諸氏）来日。**中国作家代表団**（蒋子龍団長、陸天明、張抗抗、柳建偉、李惠善、李敬澤、徐福生、陳喜儒、李錦琦の諸氏）来日。

◎12月　写真家の**稲越功一氏**訪中。

平和友好条約の締結は二十五年前。旧ソ連を刺激するとして「覇権条項」への日本のこだわりが、早期締結のネックになったことを記憶している方も多いと思う。

この条約の第三条は文化に関して、両国は「経済関係および文化関係の一層の発展並びに両国民の交流の促進のために努力する」と謳っている。因みに条約を守ることについて、憲法は第九十八条第二項で「日本国が締結した条約及び確立された国際法規は、これを誠実に遵守することを必要とする」と定めている。ところで小泉内閣成立以来、毎年首相の靖国神社参拝とそれに対する中国、韓国の抗議があり、日中関係悪化の大きな要因になっている。

この問題は中国や韓国の抗議以前に日本自身の問題である。教科書検定、有事法制、自衛隊イラク派遣等々、日本の右傾化と連動する歴史認識の問題だけではない。憲法第二十条「信教の自由」を犯すという違憲判決さえある。

憲法第九十九条は「天皇又は摂政及び国務大臣、国会議員、裁判官その他の公務員は、この憲法を尊重し擁護する義務を負ふ」と定めている。近頃この憲法自体を変えようという具体的な動きが目立つ。まさか、どうせすぐ変えるのだから暫くは守らないでいよう、という訳ではあるまい。　（九十九）

2004年

四月の常任理事会で会長に辻井喬氏、理事長に黒井千次氏の就任が決まり、新体制のもとで、文化交流をさらに広く深く展開する決意を新たにした。辻井会長は就任早々、協会代表団を率いて訪中、中国人民対外友好協会の創立五十周年記念祝賀会に出席、胡錦濤国家主席との会見があった。さらに協会と連携している諸機関、諸団体を訪ね、新体制のもとで交流を一層推進することをともに確認した。日中関係は元旦の小泉首相の靖国神社参拝で明け、いわゆる「政冷経熱」が定着する。自衛隊のイラク派遣、多国籍軍への参加、北京でアジアカップ・サッカーの試合後、一部観衆の反日的騒動、西安で遣唐使「井真成墓誌」の発見が報じられたのもこの年。年末にスマトラ沖地震・インド洋大津波。

〈二〇〇四年の主な交流〉

◎1月　「生誕一〇〇年記念　中島健蔵展　昭和を生き抜いた、本物の知識人」東京都写真美術館で開幕（主催・毎日新聞社など）、当協会が後援。

◎2月　当協会など日中友好六団体の代表、旧日本軍遺棄化学兵器による死傷事件の地訪問、被害者・遺族を見舞う、中野暁事務局次長が参加。

◎3月　日本書道界囲碁愛好者訪中団（大井錦亭団長、高際翠邦副団長）訪中。

◎4月　常任理事会で辻井喬氏が会長、高山辰雄、水上勉両氏が最高顧問、黒井千次氏が理事長に決まる。

◎5月　日中文化交流協会代表団（辻井喬団長、入江観副団長、佐藤純子、三浦雅士、山口昭男、絹谷幸太、長野微ばるり秘書の諸氏）訪中、対外友協創立五十周年祝賀会に出席。日本演劇家訪中団（森塚敏団長、本多一夫、佐藤信、中野暁、野沢由香里の諸氏）訪中。

◎6月　日本音楽家訪中団（金山茂人団長、高橋美智子、松居直美、梶川純子、長野微ばるり秘書の諸氏）訪中。中国環境・建築関係者代表団（林家彬団長、劉貴宝、葉列平、鄭宏、董振華秘書の諸氏）来日。中国曲芸家協会代表団（劉蘭芳団長）来日。

◎8月　栗原小巻代表理事、横川健常務理事、三田恭子氏訪中、第六回アジア芸術祭開幕式に出席。文化部の招き。

◎9月　テッド・タナベ氏が、上海国際サーキット会場へF1陶壁画を寄贈、当協会が協力。水上勉最高顧問が逝去。当協会など日中友好七団体が王毅大使歓迎夕食会。日本出版印刷訪中団（浜田博信団長・講談社前副社長、村松邦彦主婦の友社社長、川島隆雄小学館常務、秋山敏彦凸版印刷常務、北島義斉大日本印刷常務、佐藤祥子の諸氏）訪

対外友協創立50周年祝賀会に出席し、胡錦濤国家主席（前左）と会見する辻井喬会長（前右）。陳昊蘇対外友協会長（左一）
——二〇〇四年五月二十日　北京・人民大会堂

会長に就任した辻井喬氏（右）と理事長に就任した黒井千次氏。常任理事会で
——2004年4月30日　東京

最高顧問に就任した髙山辰雄氏（左）と新体制の発足を喜ぶ白土吾夫代表理事専務理事
——2004年4月30日　東京

この年の日本出版印刷訪中団は北京で日中出版印刷代表団相互往来40周年の記念行事に出席。杭州で浙江省新聞出版局の範春梅副局長（左一）、楊念迅出版処処長（左二）と意見交換する浜田博信団長（中）、秋山敏彦氏（右一）、陳昊氏（右二）と
——二〇〇四年九月二十四日

中、北京で**日中出版印刷交流四十周年記念座談会。日本作家訪中団**（坂上弘団長、李恢成、横川健、佐藤洋二郎、佐伯一麦の諸氏）訪中。

◎10月　「望月望郷詩碑」建碑十五周年記念日本書道院訪中団（田中凍雲、中村雲龍、高橋静豪、田中竹園、中野暁らの諸氏）一行二十六名訪中。**中国国際民間芸術祭に八丈太鼓が参加**、当協会が協力。**日中文化交流協会代表団**（篠田正浩団長、富岡多恵子、横川健、若山滋、成田龍一の諸氏）訪中。

◎11月　中国人民対外友好協会代表団（宋北杉団長、火華、崔俊恒、劉子敬、白波、董振華の諸氏）来日。北京・中央美術学院美術館での**「友好の美 展」**開幕式に、**女子美術大学付属高等学校・中学校代表団**（入江観団長）訪中。

◎12月　日本少年野球選手団（林満団長）訪中。北京での**日中友好団体実務者会議**出席のため、**佐藤純子専務理事、中野暁常任理事事務局長**が訪中。

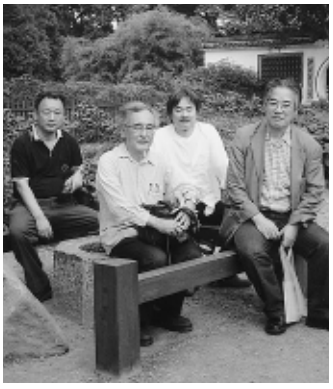
上海で、療養中の杜宣氏（右）**を見舞う日本演劇家訪中団の森塚敏団長。杜宣氏が日本の友人に会ったのはこれが最後となった**　——2004年6月1日　華東医院

南京を訪れ、呉錫軍江蘇省対外友協会長（右二）**の歓迎を受けて懇談する協会代表団の入江観副団長**（左三）**、三浦雅士**（左二）**、山口昭男**（左一）**の諸氏。通訳の胡暁丁**（右一）**、杜暁曦**（右三）**両氏**　——2004年5月22日

東京工業大学を訪れ、原科幸彦教授（中央）**のゼミで講演する中国環境・建築関係者代表団の劉貴宝氏**（右）　——2004年6月9日

〈左〉劉蘭芳団長（右二）**ら中国曲芸家協会代表団の歓迎パーティーであいさつを述べる永六輔氏**　——二〇〇四年六月二十三日　東京

女子美術大学付属高校・中学校生徒の作品展「友好の美 展」北京展の開幕に出席した同校代表団一行諸氏と万里の長城で記念撮影に収まる入江観団長（右一・校長）　——2004年11月11日　八達嶺



文豪魯迅が幼時に遊んだという百草園でしばし往時をしのぶ日本作家訪中団の（左から）**佐藤洋二郎、坂上弘団長、佐伯一麦、李恢成の諸氏**　——二〇〇四年九月二十五日　紹興

団伊玖磨会長の逝去から三年、代表理事の合議制によって歩んできた協会も体制を整える時期が熟し、辻井喬氏を会長、黒井千次氏を理事長、さらに髙山辰雄、水上勉両氏を最高顧問として創立以来の伝統である人間交流を中心に、交流事業の創造的継承を推進すべく、新たなスタートを切ることとなった。すでに数々の交流を重ねた実績とその先頭に立つ覚悟において、過去・現在・未来を見通す歴史意識において、各分野の代表理事、すなわち松尾敏男、森塚敏、伊藤京子、北村和夫、中村芝翫、野村浩一、篠田正浩、栗原小巻、代表理事専務理事白土吾夫の諸氏とともに、協会の命運を託すにふさわしい新しい指導部の誕生である。日中関係が困難な時こそ協会は真価を発揮する。これもまた協会の伝統であろう。創立五十周年を間近にした年明けに、協会創立者である中島健蔵の〝生誕百年展〟が開かれたのも何かの縁だろうか。

（九十九）

2005年

戦後六十年、日本の来し方行く末を考える年だったが、日中間の「政冷」状態に改善はみられず、民間交流の推進にも、良い環境ではなかった。首相の靖国神社参拝などで醸成された不信の底流は、日本の国連安保理常任理事国入りを目指す動きに触発され、四月に大規模な反日デモとなった。国交正常化以来かつてなかった最悪の状況である。辻井会長はただちに本誌五月号巻頭に「日中関係の現状についての私見」を発表し、不信をもたらす歴史認識問題の本質を鋭く指摘するとともに、国民レベルでの相互信頼を築くための基礎として、文化交流の重要さを訴えた。東京では当協会など日中双方五十の民間団体代表者が「平和と善隣友好に関するアピール」を採択、事態を憂慮し、友好発展への努力を呼びかけた。愛知万博が人気を博し、郵政民営化賛否に問題を収斂した総選挙で自民党が歴史的圧勝、十月に小泉首相は靖国神社参拝。中国では全人代で胡錦濤主席が国家中央軍事委主席にも就任。十月、巴金氏が逝去、享年百一歳。

（左から）議事の進行を務める黒井千次理事長と辻井喬会長、中村芝翫代表理事、松尾敏男代表理事
——2005年6月9日　東京

王蒙夫妻を自宅に訪ねて歓談の一時を過ごした日本経済界代表団。（右から）小林陽太郎、手納美枝、辻井喬団長、王蒙、品川正治顧問、藤原作弥、崔瑞芳夫人ら諸氏
——2005年3月7日　北京

〈二〇〇五年の主な交流〉

◎3月　**日本経済界訪中団**（辻井喬団長、品川正治顧問・国際開発センター会長、小林陽太郎富士ゼロックス会長、藤原作弥日立総合計画研究所社長、手納美枝デルタポイントインターナショナル社長らの諸氏）訪中。北京で「**辻井喬作品出版座談会**」開催。名古屋でのトークセッション「**日中交流新世紀**」に篠田正浩代表理事が出演。北京の「**漢俳学会成立大会**」祝賀に**日本・現代俳句協会代表団**（金子兜太団長、倉橋羊村、安西篤、相原左義長各副団長、齋藤梅子、谷山花猿両顧問、佐藤祥子秘書長らの諸氏）一行二十五名訪中。**江南文化愛好者訪中団**（芦澤美佐子団長、田所竹彦副団長）訪中。

◎4月　**日本書道界囲碁愛好者訪中団**（田中凍雲顧問、大井錦亭団長、高際翠邦副団長、友井幸雄、千葉軒岳、南八郎、木曾梅邦、吉田錬雪、田中廣悦、中野暁の諸氏）訪中。東京で日中民間友好五十団体代表者が集い「**平和と善隣友好に関するアピール**」を採択、辻井会長らが出席。**中国文学芸術界連合会代表団**（馮驥才団長、李前寛、尼瑪澤仁、張書茂、宋建民、趙平の諸氏）来日。

◎5月　**日本文化界訪中団**（栗原小巻団長、横川健、黒田佳子、増井信貴、大和田葉子、竹本リサ秘書の諸氏）訪中。北京で團伊玖磨氏のエッセイ集「パイプのけむり」の中国語版『**煙斗随筆**』**出版記念会**、日本文化界訪中団一行、團紀彦、竹田博志、梅木鮎太郎の諸氏が出席。「**世界の作家が見た浙江及び第三回浙江作家祭**」に参加のため、**立松和平、美千絵夫妻**が訪中。

◎7月　**中国人民対外友好協会代表団**

〈右〉中国出版代表団の桂暁風団長（左）と出版・印刷交流の重要さを語り合う篠田正浩代表理事
——二〇〇五年十月十八日　東京

〈上〉「宮島のだんまり」鑑賞後、中村芝翫代表理事（左二）、雅子夫人（右一）に感想を語り、記念の書を贈る対外友協代表団の劉徳有団長（左一）、蘇士澍（右二）の諸氏
——二〇〇五年七月十八日　大阪

中国文連代表団の馮驥才団長（右三）、尼瑪澤仁氏（右二）、張書茂氏（右一）を「春の院展」に案内した松尾敏男代表理事　——2005年4月9日　東京

故團伊玖磨会長の随筆集『煙斗随筆（パイプのけむり）』の出版記念会が北京で開かれた。席上、協会を代表してあいさつを述べる栗原小巻代表理事　——2005年5月17日　対外友協・友誼館

協会代表団に加わって訪中、北京で田壮壮監督（右）との再会を喜び、映画の話が尽きない小栗康平監督　——2005年11月10日

北京で開かれた漢俳学会の成立大会に、祝賀のため現代俳句協会代表団などが訪中した。壇上には中央に劉徳有会長、金子兜太、有馬朗人ら諸氏の顔が見える　——二〇〇五年三月二十三日　対外友協講堂

湖南省韶山にある毛沢東生家を訪れた日本「中国文学研究者」訪中団。（左から）関根謙、南雲智、岸陽子団長、千野拓政の諸氏と中国作家協会の李錦琦氏　——2005年8月17日

本間繁輝団長ら日本教育者友好訪中団は紹興で東浦鎮の熱誠学校を訪問、日本の小学生の作文集を贈るなど交流を行なった　——2005年8月10日

（劉徳有団長、袁敏道秘書長、蘇士澍、張宝瑞、関湧、杜暁曦の諸氏）来日。**中国現代文学館代表団**（李栄盛団長）来日。

◎**8月　日本「人間環境問題法学者」訪中団**（野村好弘団長、村田哲夫副団長、奥田進一秘書長）訪中、北京で**日中法学シンポジウム**。**日本教育者友好訪中団**（本間繁輝団長、田中定幸、榎本豊両副団長、小阪裕二秘書長）訪中。**日本「中国文学研究者」訪中団**（岸陽子団長、南雲智、関根謙、千野拓政の諸氏）訪中。南京、北京で**混声合唱組曲「悪魔の飽食」**第二次訪中公演、当協会など後援。

◎**9月　東京芸術大学訪中団**（林康子、永井和子らの諸氏）訪中。**北京ビエンナーレ展**開幕式に入江観、大矢紀、齋藤研、三浦明範、ワシオ・トシヒコ、横川健の諸氏が出席。

◎**10月　小澤征爾氏**が北京と上海でオペラ公演、当協会が協力。**中国作家代表団**（唐浩明団長、顧驤顧問、宗仁発、李錦琦の諸氏）来日。**中国出版代表団**（桂暁風団長、田勝立、孫文科、王福珍、毛小茂、王志成の諸氏）来日。**巴金氏**（中国作家協会主席）**が逝去。テッド・タナベ氏が上海国際サーキット場へ二作目の陶壁画寄贈**、当協会が協力。

◎**11月　日中文化交流協会代表団**（辻井喬団長、横川健、宇佐美圭司、秋山晃男、小栗康平、大澤真幸、戸室道子の諸氏）訪中。女子美術大学での**「友好の美　展」**開幕式出席のため、**中央美術学院付属中等美術学校代表団**（賈暁燕団長）一行十一名来日。